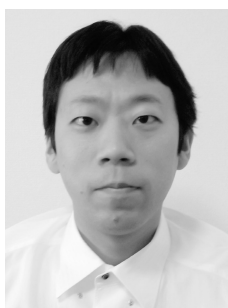


～砂田賞～



松下 裕一

略 歴

昭和51年7月21日生
平成14年3月31日 岡山大学医学部医学科卒業
平成14年5月16日 岡山大学医学部附属病院第三内科医員
平成14年10月1日 岡山赤十字病院勤務
平成16年4月1日 阿知須共立病院勤務
平成18年4月1日 国立病院機構岡山医療センター勤務
平成20年4月1日 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程入学
平成23年9月30日 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了
平成23年10月1日 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腎・免疫・
内分泌代謝内科学客員研究員（現在に至る）

研究論文内容要旨

ストレプトゾトシン誘発糖尿病マウスを用いて、核内受容体peroxisome proliferator-activated receptor δ (PPAR δ) アゴニスト (GW0742) の糖尿病性腎症への治療効果を検討した。方法としてはC57BL/6マウスを糖尿病誘発後にGW0742を8週間経口投与し、代謝データ、腎組織の変化を検討した。またマウスマクロファージ細胞にGW0742を添加し、ケモカインであるmonocyte chemoattractant protein-1 (MCP-1) およびその転写抑制因子B-cell lymphoma 6 protein (Bcl-6) の発現変化を検討した。その結果GW0742投与マウスは糖尿病マウスと比較し尿中アルブミンの有意な減少をみとめ、腎組織ではマクロファージの浸潤が抑制された。またマウスマクロファージ細胞においては高糖濃度刺激によるMCP-1のmRNA発現増加やfree Bcl-6の減少が、GW0742添加により改善した。以上からPPAR δ アゴニストは糖尿病性腎症において、Bcl-6/MCP-1を介して炎症を抑制することにより、腎症の進展を抑制することが示唆された。